

人の和 努力 実践の
～光あふれる「未来」のために～

20年



JA 綱領

—— わたしたち JA のめざすもの ——

わたしたち JA の組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織として社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 一．地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 一．環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 一．JA への積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 一．自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JA を健全に経営し信頼を高めよう。
- 一．協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

咲かそう、そうま

みんなでタネをまきましよう。
そうまにタネをまきましよう。
「希望」のタネ「元気」のタネ「幸せ」のタネ
そうまにハナをかかせましよう。
「笑顔」のハナ「感謝」のハナ「勇気」のハナ



やがて、実を結んだみんなのタネは、
空からそうまへふりそそぎます。
みんなでタネをまきましよう。
光あふれる「未来」のために。

JA そうま合併 20 周年記念誌

人の和 努力 実践の20年

～光あふれる「未来」のために～

目 次

経営理念	4
------	---

発刊にあたって

そうま農業協同組合 代表理事組合長 今村 秀身	5
-------------------------	---

発刊に寄せて

相双農林事務所長 小島 重紀	6
JA 福島五連会長 大橋 信夫	6
相馬市長 立谷 秀清	7
南相馬市長 桜井 勝延	7
新地町長 加藤 憲郎	8
飯館村長 菅野 典雄	8

I . JA そうまの概要

JA そうまの概要	10
事業進捗	11
事業施設	14
組織機構図	16

II . JA そうま 20 年のあゆみ

歴代組合長・歴代役員	18
組織活動	21
特別対談 「JA 組織活動と事業・運営の更なる活性化をめざして」	23
支部長会長会連絡協議会会長 島 一	
農業者青年連盟委員長 木幡 竹利	
女性部部長 半谷 真知子	
代表理事組合長 今村 秀身	
代表理事専務 星 保武	
20 年のあゆみ	26
東日本大震災復興への取組み	42
JA そうま広報誌「ひろば」のあゆみ	46

店舗一覧	50
------	----

編集後記

経営理念

私たち JA そうまは、組合員をはじめ広く地域社会の人達と手を携え、農産物の生産と、流通、生活、金融にわたるすべての分野の事業を通じて、快適で豊かな生活の実現と、更に活動の輪を大きく広げ地域社会の発展と安定をめざします。



このシンボルマークは、実り豊かな大地の恵みを生みだすそうまの地をモチーフに、「豊かな地域社会」づくりの躍動感をイメージし、JA そうまの精神と方向性「人の和、努力、実践」を示しています。赤は「太陽と食」を、緑は「豊かな自然」を、橙は「人々の和と代々の繁栄」を表現しています。

人の和

どのような組織も互いに信頼し合ってこそ成り立っています。組合員、その家族、地域社会の人々と協力し合い、共に豊かな社会をめざします。

努力

JA は総合事業を展開しています。それぞれの事業が大切な役割を担い、また経済事業としての目的も併せ持っています。正しく理解し、高度な知識・技能を身につけ、効率的な運営をめざし、生産性の向上に努力します。

実践

自分たちの組織を動かしているのは、私たち一人ひとりです。自らが率先して行動し、昨日より今日、今日より明日へと精一杯努力してこそ発展します。主体的で積極的な行動により、明日の JA をめざし誠実に実行します。

JA そうま（そうま農業協同組合）

〈本店住所〉

〒 979-2442

福島県南相馬市鹿島区横手字川原 185-1

TEL (0244) 67-2551 FAX (0244) 67-2545

URL <http://www.ja-soma.or.jp>

E-mail somu@ja-soma.or.jp





そうま農業協同組合
代表理事組合長
今村 秀身

発刊にあたって

平成8年3月1日にそうま農業協同組合が誕生し、平成27年度をもって合併20周年の節目を迎えることとなりました。新地町・相馬市・相馬鹿島町・原町市・石神・小高町・飯舘村の7JAは、それぞれ地域に根ざした協同組合運動を展開していましたが、厳しい環境に立ち向かい、組合員の皆様の営農とくらしを守るため、合併による経営基盤強化を目指しました。

合併後今日まで、様々な法・制度改正や規制緩和、農業政策の変転、農産物の輸入自由化、東日本大震災・東電福島原発事故など、長く厳しい道が続いております。この間、当JAは一貫して、「人の和・努力・実践」を経営理念・合言葉とし、組合員の皆様の負託に応えるべく、協同組合運動を展開してまいりました。近時では、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）加盟や農協改革の動向など、JAはさらに厳しく大きな渦の中に巻き込まれようとしています。より強く、時代に対応する新しいJAをつくるため、福島県北地区4JAによる平成28年3月合併を組合員の皆様とともに是非実現したいと考えております。

平成27年度は、そうま農業協同組合として、まさに合併前の集大成の年となります。波乱万丈の20年の歩みを振り返り、地域の輝く未来を展望するため、「合併20周年記念誌」を編纂・発刊することといたしました。これまで支えていただいた組合員・地域の皆様、役員、関係者の皆様へ深甚なる感謝の意を表するとともに、今後もJAが「地域にかけがえのない存在」であり続けることを固く決意・宣言するものであります。

震災・原発事故により当地方は未曾有の被害を受け、復興は道半ばであります。あの躍動感あふれる「緑」と「大地」が再生するまで、粉骨砕身の努力を重ねてまいります。

今後のJA事業・運営に、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。合併20周年記念誌発刊にあたってのごあいさつとさせていただきます。



より豊かで魅力ある相馬地方を創造し、次代に引き継ぐために。

相双農林事務所長 小島 重紀

そうま農業協同組合が合併 20 周年を迎えるにあたり、お祝いを申し上げます。

この間の相馬地方の農業は、稲作では肥料や農薬を通常より 5 割削減という基準の「特別栽培米」の生産拡大に取り組み、平成 22 年度には特別栽培米の作付が 3,227ha、集荷は 19 万 7 千俵で集荷総数の 47.7%を占めるに至っていました。

また、冬季の温暖な気象環境を生かしたトマト、ニラなどの野菜生産や共進会等で様々な賞を受賞しブランド力を高めてきた肉牛など、農協と組合員農家とが一体となった営農の取り組みは着実な成果を上げてきていたところでした。

しかしながら、平成 23 年 3 月、東日本大震災が発生し、大地震、大津波、原子力災害、更には風評により、相馬地方の農業は大変な打撃を被り、今なお、深刻な状況に置かれています。

そのような中、そうま農業協同組合は、地域を支える農業組織としてその誇りを失わず、一丸となって災害と正面から向き合い、復興・再生に向けて努力を続けておられます。特に、日本酒「天のつづ」をはじめとした 6 次化商品の開発については、県としても深い敬意を表するところであります。

今後は、復旧・復興の歩みを更に加速させるとともに、単に震災前の状況に戻すだけではなく、以前よりも豊かで魅力ある相馬地方を創造し、若い世代に引き継いでいかなければなりません。農業は私たちが生きる上で基本となるものであり、地域の基幹産業としての農業の復興と心のふるさととしての農山漁村の再生なくして、本県の真の復興はないものと考えております。

貴組合におかれましては、JA ふくしま未来への合併を控えておりますが、引き続き組合一丸となって、将来にわたり組合員の負託に応える組合運営を維持していただきますようご期待申し上げます。

結びに、組合員及び役職員の皆様には、今後とも、本県農業の一日も早い復興と農業振興のためなお一層のご協力をお願いいたしますとともに、そうま農業協同組合の更なる発展を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



組合員、そして地域になければならない JA をこれからも。

JA 福島五連会長 大橋 信夫

JA そうま合併 20 周年記念誌発刊にあたり、JA 福島中央会ならびに各連合会を代表し、お祝いのご挨拶を申し上げます。

貴組合は、平成 3 年の新 JA 合併基本構想に基づき、平成 8 年 3 月 1 日に相馬地方 7JA が合併して以来、今日まで経営理念である人の和、努力、実践のもと、地域組合員の営農と生活支援のため、積極的な事業展開により、地域農業の発展に貢献され、米の生産では、いうまでもなく県内有数の生産地帯であり、また園芸、畜産の基盤確立にも食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合の力を遺憾なく発揮され、組合員、地域の皆様より大きな信頼を頂き、地域になければならない JA として発展してこられましたことに、心より敬意を表する次第であります。

しかしながら、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災および東京電力原発事故により、その築き上げた基盤と県内農畜産物に対する消費者からの信用が大きく損なわれ、相馬地方、そして本県農業の復興の道のりは、たいへん厳しいものとなっております。また、農業分野に大きく影響を及ぼす TPP 交渉問題や政府が打ち出した農協改革など山積する課題に対し JA グループは内憂外患の対応を余儀なくされており、JA グループ福島としても「大震災・原発事故からの再生と次代へつなぐ協同の実践」と平成 28 年 3 月の県内 4 JA 構想の実現を通じて、組合員そして地域にとってなくてはならない JA の確立にグループを挙げ、全力を傾注しているところであります。

貴組合におかれましても、合併 20 周年を契機にますます協同活動に精励され、地域農業の振興と農業所得向上、更に豊かで住みよい地域社会の創造に向けて JA としての役割をより一層発揮されることをご期待申し上げます。

結びに、JA そうまのますますのご発展と、組合員皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げ、JA そうま合併 20 周年記念誌発刊に対するお祝いのご挨拶といたします。



福島県北地区 4 JA の合併を契機に、 更に農業者に寄り添う JA に。

相馬市長 立谷 秀清

この度、そうま農業協同組合が、相馬地方 JA の合併から 20 周年を迎えましたことに、心よりお喜びを申し上げます。また、今村組合長はじめ、歴代組合長及び役職員各位のご尽力、そして組合員各位のご努力に対しまして、衷心より敬意を表します。

さて、この 20 年間を振り返りますと、農業者の高齢化や担い手不足など経営体の問題や、国民一人当たりの米消費量の減少や米価の下落、農家経営安定のための農政の変遷や TPP など、経済全体や政策面においても、農業を取り巻く環境は大きな変化を続けており、貴組合はもとより農業者にとりましても非常に厳しい状況が続いています。

更に、当地方は、未曾有の災害である東日本大震災の津波により、多くの尊い命が奪われたうえに、大切な農地が広範囲にわたって被災しました。また、原子力発電所の事故による放射能汚染や風評被害など、今までに経験したことのない過酷な状況の中であって、農業者、貴組合、そして各自治体が、震災前の豊穡の姿を取り戻せるよう努力を続けています。

本市としても、津波被災農地の復旧工事や除染、農作物の放射線検査などの放射能対策事業のほか、生産活動や農村環境の再生に向けた各種支援事業や集落営農・農業法人育成の推進など、農業の復興に取り組んでおります。

今後、震災からの復興を成し遂げ、地域農業の発展や農村の活性化を図るためには、農業者、JA、各自治体がそれぞれの力を発揮して連携すると共に、今後とも JA が農業者に寄り添い、積極的に営農活動をけん引していただくことが極めて重要なものと考えております。

今回の合併 20 周年を節目に、そして来年 3 月に予定されている福島県北地区 4 JA の合併を契機とし、関係各位の新たな決意のもと、JA がこれまで以上に農業者に寄り添い、次の 20 年を見据えた持続可能な安定した農業経営の仕組みを構築していただくよう、一層のご尽力を心からお願い申し上げます。

結びに、JA そうま及び JA 組織の今後のご発展、ご関係の皆様のご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



農業の復興から新たな発展のステージに 向けた環境整備をともに。

南相馬市長 桜井 勝延

JA そうまが合併 20 周年を迎えられましたこと心よりお慶びを申し上げます。

また、農協合併以来、相馬地方の農業振興と組合員の経営基盤強化を図るため、組合長をはじめ役職員の方々がたゆまぬ努力を重ねてこられましたことに対し、深く敬意を表します。

さて、農業を取り巻く情勢は、TPP 等農業の国際化に加え、農家の高齢化と担い手不足、平成 26 年産米の米価下落など厳しいものとなっております。本市においては、これらの情勢に加え、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う大津波により、農地及び農業機械等に甚大な被害を受けるとともに、地域農業の担い手の尊い命が失われました。更に東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、農地が放射性物質により汚染され、農作物への風評被害などによって農家の生産意欲が低下し、農業の復興への大きな課題となっております。

このような中、JA そうまには、農業の復興に向け、将来の地域農業を担う農家の確保に併せ、農家の経営所得の安定と向上など、企業的な経営体の育成・支援の充実に向けた積極的な活動等の役割が求められるものと考えております。

市といたしましては、平成 26 年度に策定した南相馬市復興総合計画を基に、農業の復興から新たな発展へのステージに向け、農業生産基盤の大区画化と汎用化に向けた環境整備を進めるとともに、営農再開に向けた多角的な支援や風評被害の払拭に向けた対策を講じ、更に経営感覚に優れた農業経営者の育成を図ってまいります。

終わりに、JA そうまの益々のご活躍、ご発展をご祈念申し上げ、合併 20 周年にあたってのお祝いの言葉といたします。



まちづくりと農業復興を一体的にとらえ、それを共有できる地域に。

新地町長 加藤 憲郎

そうま農業協同組合がこのたび合併 20 周年を迎えるにあたり、心よりお祝いを申し上げます。貴 JA は、平成 8 年 3 月 1 日に相馬地方 7 JA が合併し、発足以来「人の和・努力・実践」の理念を实践され、快適で豊かな生活の実現と、更なる活動の輪を大きく広げ地域社会の発展と安定をめざしてこられました。更に経済の市場主義化やグローバル化が進むなか、組合員の皆さんの絆を基盤に、生産から販売、金融にいたる総合事業の展開及び福利向上、地域振興の発展にご貢献されておられることは誠に慶賀に堪えません。

この間、組合長をはじめ JA 関係者の皆さまには、当町の基幹産業であります農業の振興に多大なるご尽力を賜り、また、町政各般にわたり特段のご理解とご協力を賜っておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、町の基幹産業であります農業は、今回の震災で甚大な被害を受けました。町の復興は道のりが長く険しいものであることは間違いありませんが、だからこそ、まちづくりと農業の復興を一体的にとらえ、復興に向けた理念を明確にし、人々がそれを共有することが今最も求められているのだと感じています。

町も水田の復旧が進み作付けが行われ、施設園芸も着実に収益を上げていますが、原子力発電所の風評被害はまだまだ根強く残っています。風評被害を払拭し、産地の安全・安心を守るため農産物直売所「味菜ひろば よりみち」を今春オープンしていただきました。JA の果たす役割と、地域からの期待は非常に大きいものがありますので、今後とも地域農業の振興にご協力をお願いしたいと思います。

私ども行政としまして、地域に根付いた支援施策を念頭に置き、貴 JA と連携しながら関係者一丸となって、次の世代へ引き継げる農業をめざしていきます。

最後に、全国の多くの消費者の方々へ、信頼される安全で安心な農産物をご提供されますことを期待いたしますとともに、組合長をはじめ JA 関係者の皆さま方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



前例に促われない発想と「までき」の精神で、ふるさとの農をもう一度。

飯舘村長 菅野 典雄

福島県相馬地域の農業を長年にわたり牽引してきた JA そうまが合併 20 周年を迎えられるとのこと、誠にありがとうございます。

合併 10 周年の折には「集落営農」というキーワードで JA の果たす役割と、村が JA に期待するものの大きさについて寄稿させていただきました。また、村としても「農業なくして我が国の発展なし」との考えのもと、社会構造の変化に対応した農村振興に努めてまいりました。

しかしながら、JA そうま合併 20 周年を迎える今日、私たちは 10 年前には誰も想像しえなかった未曾有の苦境に立たされています。

東日本大震災とその後の原子力災害により、5 年目を迎えた今も相馬地方の多くの方々が避難を強いられており、風評被害の払拭はもとより営農再開の兆さえ見出すことが困難な状況にあります。しかし同時に、今日の状況は、奇しくもこれまでの課題の抜本的かつ革新的な解決のための糸口と捉えることができるかも知れません。

私たちはかけがえのない「ふるさと」と失われつつある「農の営み」を取り戻すという、誰も成し遂げたことのない復興を果たさねばなりません。そしてそのためには「農業技術の維持と継承」、「農業環境の再生」、「営農再開の推進」、「あらたな土地利用型農業の推進」など、前例に促われない発想と「までき」の精神に則った不断の取り組みが必要不可欠です。

震災以前の取り組みに増して、震災後は組合員を含む全農業者の代表者として賠償や除染、農業基盤復旧に尽力されてきた JA そうまに対し深く敬意を表します。今後とも被災地の農業復興の担い手として、更なる躍進を遂げられるようご祈念申し上げ、JA そうま合併 20 周年にあたってのご挨拶といたします。



JA そうまの概要

JA そうまの概要

JA は、福島県浜通り北部に位置し、北は宮城県、南は浪江町に接した2市1町1村（相馬市・南相馬市・新地町・飯舘村）を管内としています。

東は太平洋、西は穏やかな山並みを連ねた阿武隈高地に挟まれ、比較的なだらかな山地が連なり、豊かな自然にはぐくまれています。



●管内データ

管内面積 総面積 872.59km²で県土の約 6.3%を占める。

管内人口 112,980 人（平成 27 年 6 月 1 日現在）
（南相馬市 63,196 人、相馬市 35,894 人、新地町 8,014 人、飯舘村 5,876 人）

気 候 海岸沿いの平坦部は海洋性気候のため比較的温暖ですが、一方の阿武隈山間部は、平坦部に比べ夏はやや涼しく冬は冷え込みが厳しいのが特徴です。

●主要農産物



【米】

阿武隈山系裾野から太平洋側に広がる広大な水田地帯。晴れわたる日が多く、年間を通して穏やかな気候の中で育まれた、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「天のつぶ」が銘柄米です。



【梨】

エコファーマー栽培に則った有機質主体の施肥体系で、徹底した土作りのもと、太平洋からの浜風と、太陽の光を燦々と浴びた風味豊で甘みたっぷりのジューシーな梨です。



【苺】

ビタミンCが豊富であるほか抗酸化物質のアントシアニンを含みます。当地域は温暖な気候と豊富な日照を活かした観光イチゴ園が盛んで1月～5月まで楽しめます。



【ブロッコリー】

緑濃く、しっかりとしたドーム形状。食べては花蕾の食感が良く柔らかい。機能性野菜として注目が高く、料理しやすい。当管内の露地野菜の柱として氷結めで出荷します。

●6 次化商品

【天のつぶ純米酒】

そうま産「天のつぶ」を 100% 使用した県下初のお酒。製造元は浪江町で被災した浜通りの復興を目指す鈴木酒造店。味は淡麗辛口で食材のうまみを引き出しどんな料理にも合います。

【天のつぶせんべい】

そうま産「天のつぶ」を 100% 使用し、白米をそのまま炊飯し焼き上げることで米粒がはっきりしており、柔らかで歯ごたえがある食感が特徴の、お米せんべいです。



【いちじくドライフルーツ】

そうま産の成熟したいちじくを砂糖とたっぷりの赤ワインでじっくり 8 時間弱火で丁寧に煮詰め低温乾燥でやさしく干し上げました。添加物は一切使用しない健康食品です。

組合員数

(単位：人)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
正	16,849	17,161	17,349	17,308	17,285	17,236	17,195	17,054	16,930	16,717	16,558	16,381	16,202	15,968	15,780	15,375	15,226	15,336	15,335
准	4,751	4,460	4,526	4,520	4,540	4,502	4,503	4,514	4,520	4,473	4,542	4,689	4,818	5,023	5,166	5,197	5,224	5,578	5,740
計	21,600	21,621	21,875	21,828	21,825	21,738	21,698	21,568	21,450	21,190	21,100	21,070	21,020	20,991	20,946	20,572	20,450	20,914	21,075

組合員戸数

(単位：戸)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
正	11,995	11,955	11,901	11,873	11,865	11,830	11,561	11,513	11,680	11,597	11,539	11,484	11,415	11,334	11,260	11,096	11,059	11,049	11,051
准	3,915	3,932	3,976	3,960	3,969	3,927	4,001	4,006	3,925	3,883	3,943	4,040	4,129	4,281	4,388	4,411	4,433	4,698	4,835
計	15,910	15,887	15,877	15,833	15,834	15,757	15,562	15,519	15,605	15,480	15,482	15,524	15,544	15,615	15,648	15,507	15,492	15,747	15,886

出資金

(単位：千円)

8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
3,235,071	3,228,672	3,260,889	3,269,550	3,293,130	3,299,772	3,308,211	3,286,854	3,268,023	3,237,240
18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
3,250,362	3,241,968	3,236,580	3,220,815	3,187,776	3,118,608	3,084,273	3,054,996	3,028,893	

役員数

(単位：人)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
理事	102	30	30	30	30	29	30	30	30	30	30	30	30	30	29	30	22	22	22
監事	26	9	9	9	9	9	10	10	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8

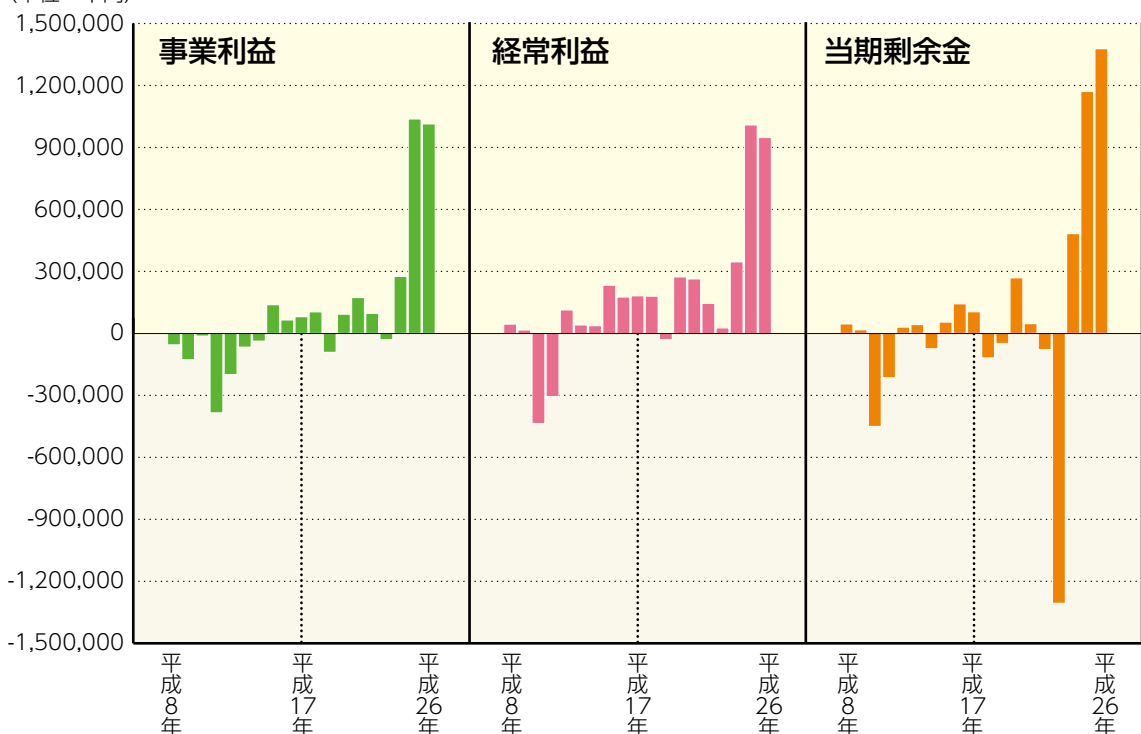
職員数

(単位：人)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
正職員	544	501	470	456	429	413	404	399	349	331	320	312	302	302	306	289	274	275	275
臨時職員	110	111	122	153	161	171	173	169	114	117	123	128	139	156	169	125	125	116	113
計	654	612	592	609	590	584	577	568	463	448	443	440	441	458	475	414	399	391	388

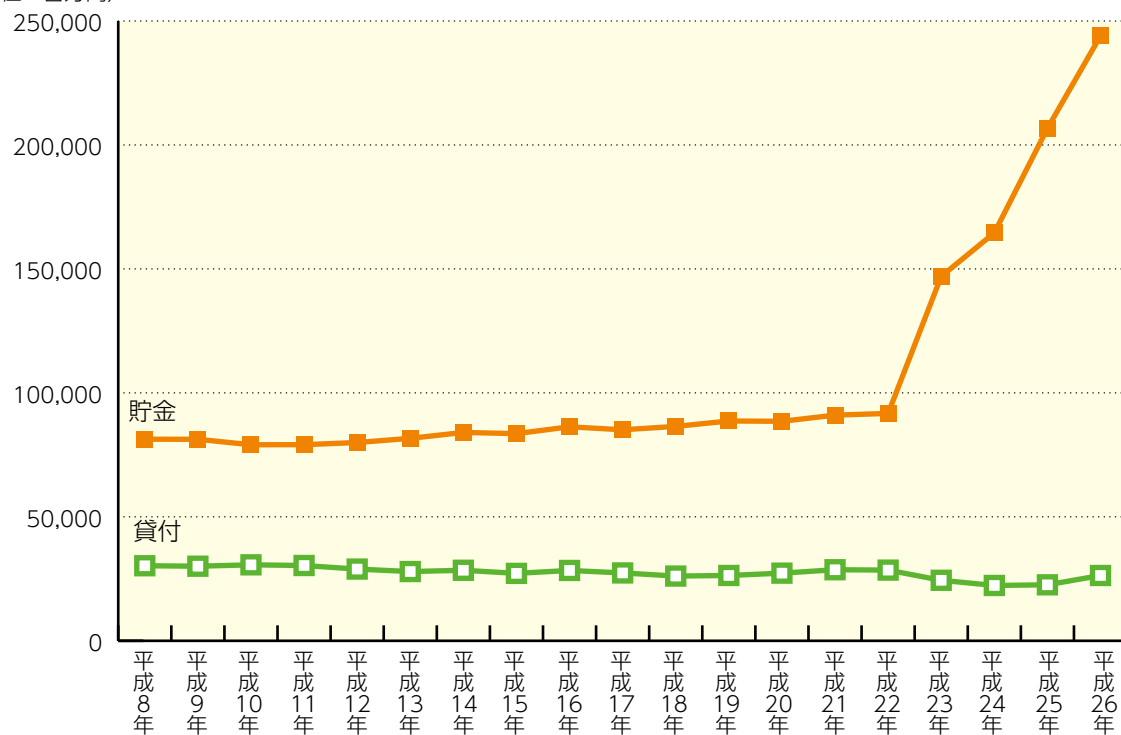
事業利益・経常利益・当期剰余金

(単位：千円)



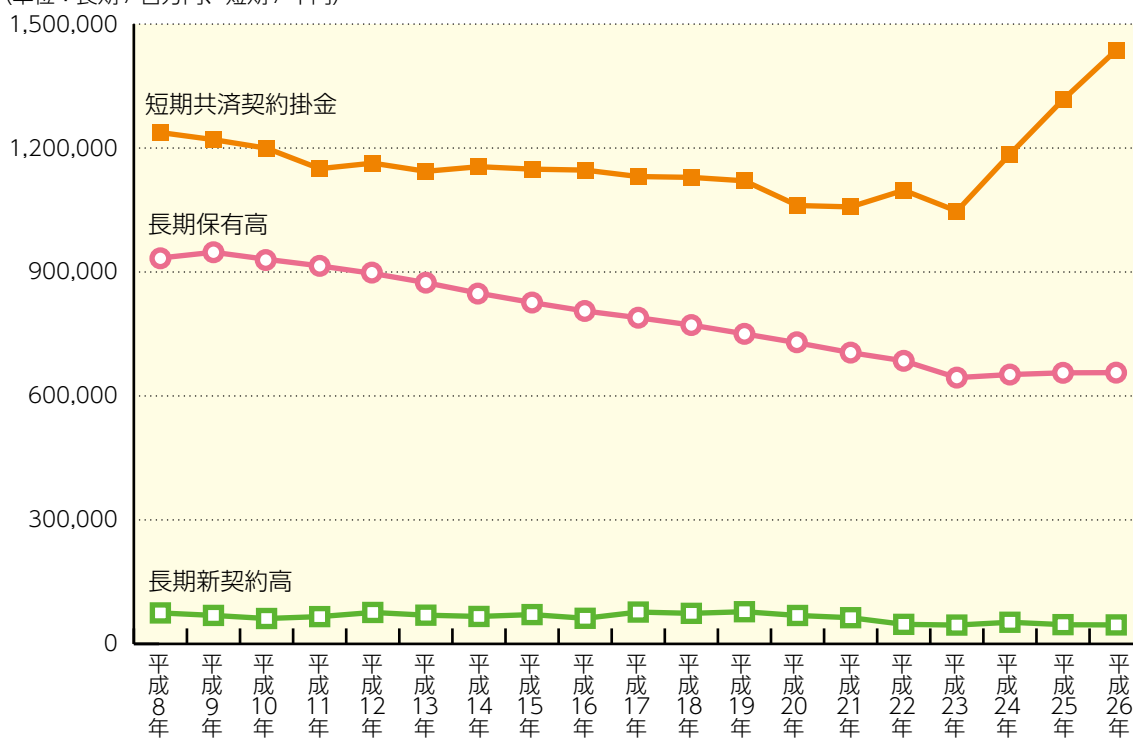
信用事業

(単位：百万円)



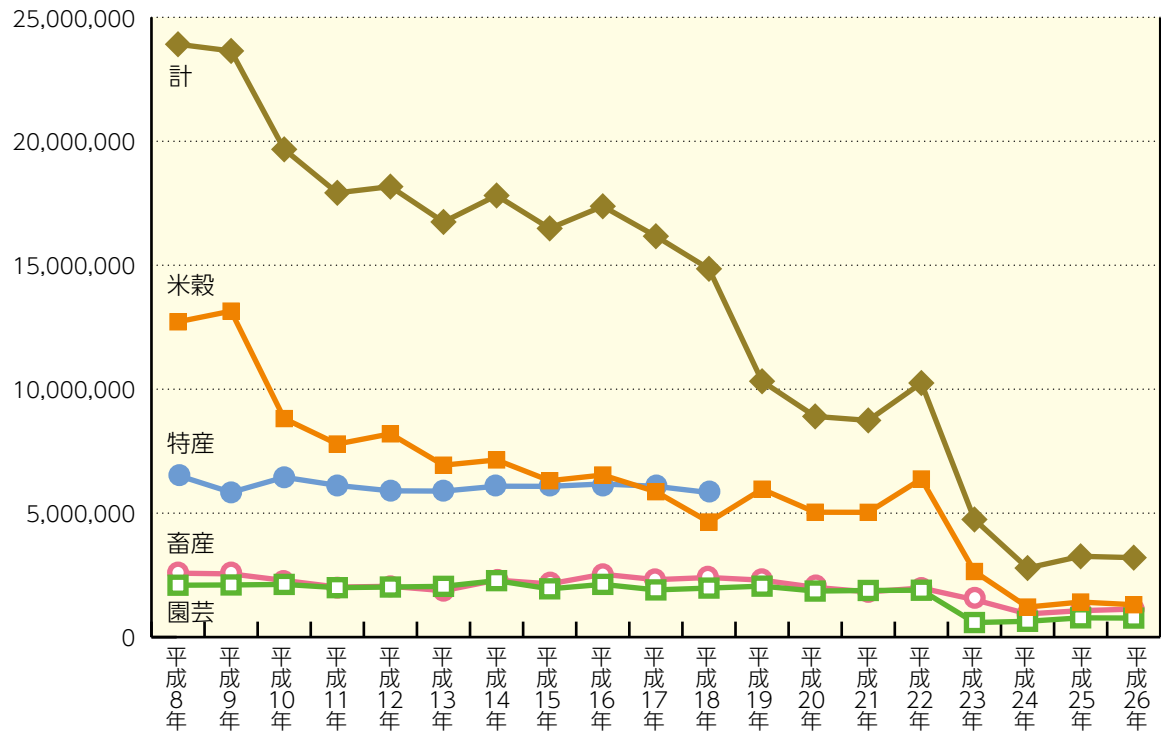
共済事業

(単位：長期 / 百万円、短期 / 千円)



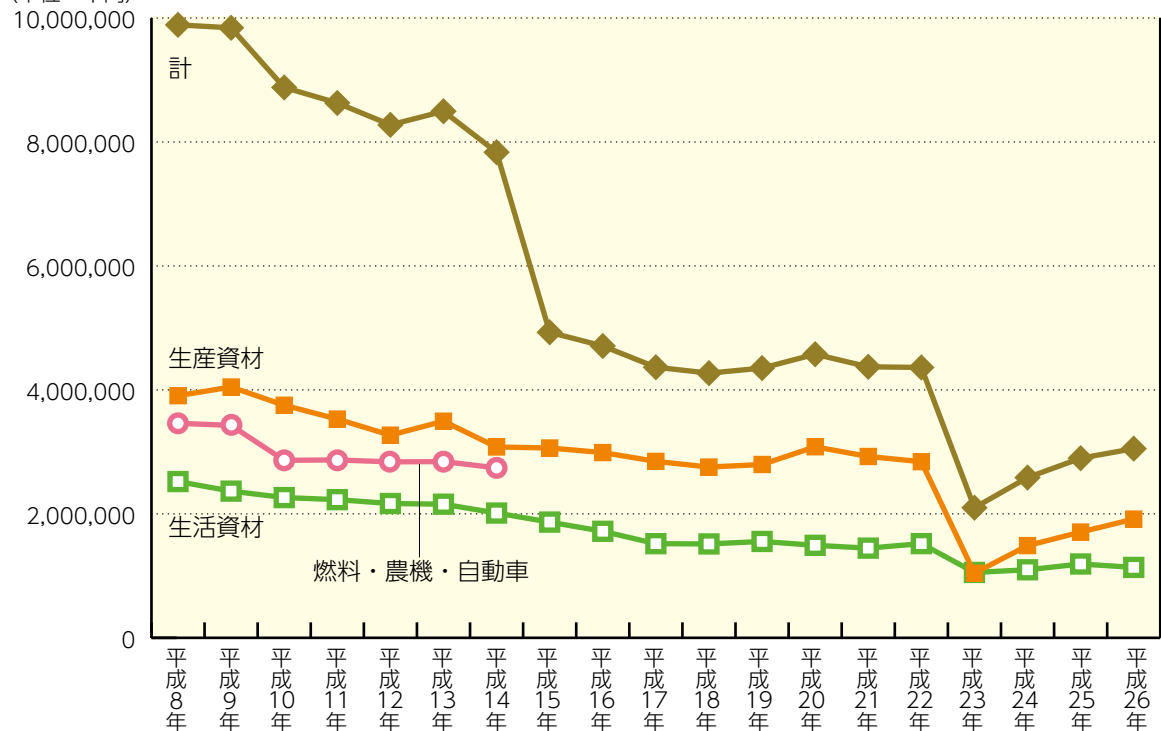
販売事業

(単位：千円)



購買事業

(単位：千円)





JA そうま管内には、26の事業施設があります。

これらを拠点として、「人の和 努力 実践」をモットーに地域の笑顔をつないでいます。

本店：鹿島総合支店



新地ライスセンター



新地総合支店



農産物直売所
「味菜ひろば よりみち」



大野プラザ



相馬中村
カントリーエレベーター



相馬中村総合支店



農産物直売所
「ふれあい旬のひろば」



相馬中村総合研修センター



やすらぎ会館相馬



中村みなみ支店



玉野出張所



鹿島営農センター



ローンセンター



上真野支店



福祉センター



やすらぎ会館原町



小高総合支店飯店舗



農産物直売所「旬のひろば」



原町総合支店



原町カントリーエレベーター



原町営農センター



小高営農センター飯店舗



石神ライスセンター

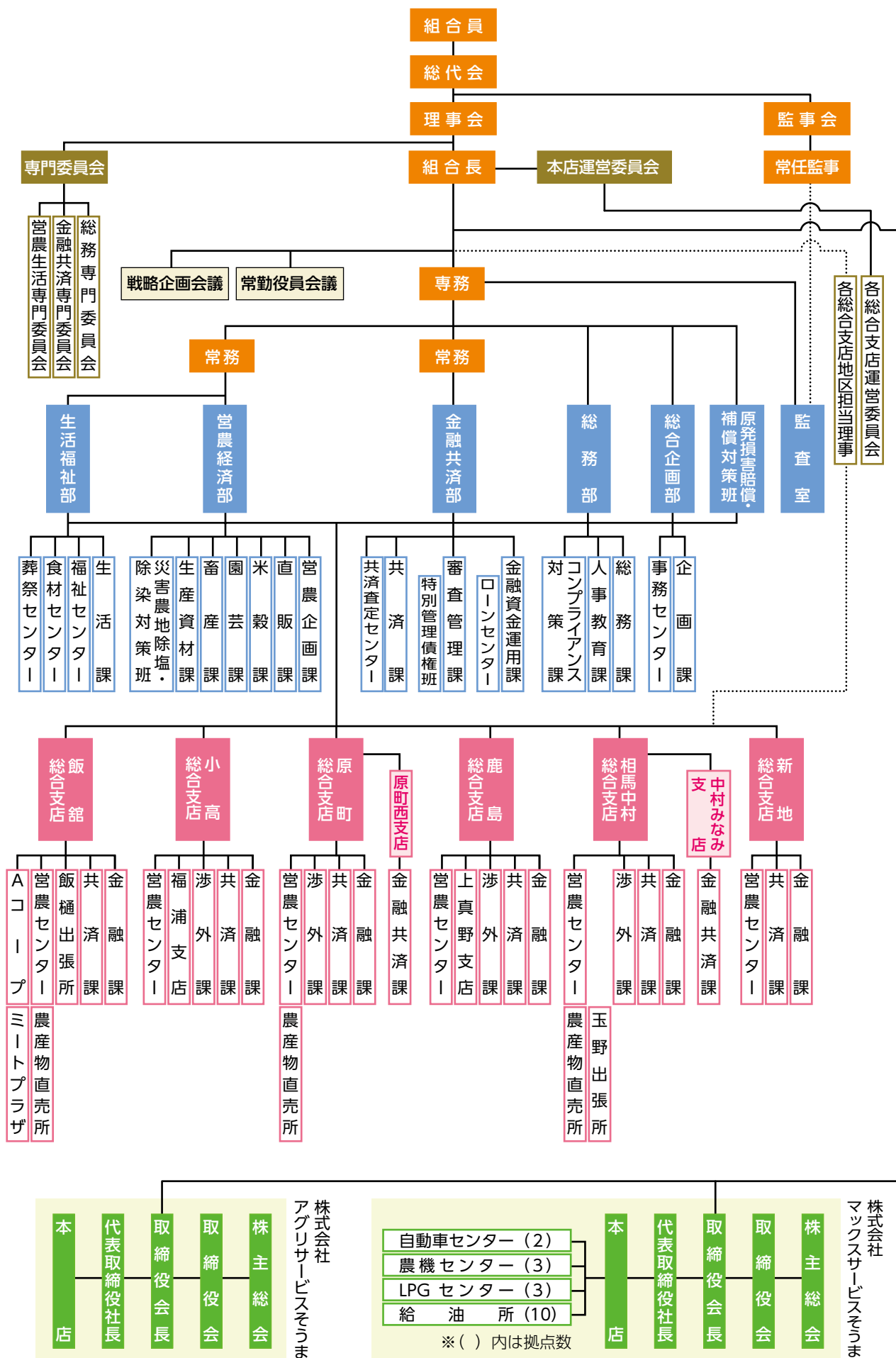


原町西支店



飯館総合支店：営農センター

(平成 27 年 3 月 1 日現在)





JA そうま 20年のあゆみ

歴代組合長・歴代役員



代表理事組合長 **横山 卓三** (故)
任期期間 平成8年3月1日～
平成13年6月22日



代表理事組合長 **荒 昭悦** (故)
任期期間 平成13年6月22日～
平成15年5月29日



代表理事組合長 **森 義光**
任期期間 平成15年5月29日～
平成18年5月28日



代表理事組合長 **鈴木 良重**
任期期間 平成18年5月28日～
平成24年5月26日



代表理事組合長 **内藤 一**
任期期間 平成24年5月26日～
平成27年5月30日



代表理事組合長 **今村 秀身**
任期期間 平成27年5月30日～現在

第1期 自 平成8年3月1日 至 平成9年4月12日	代表理事組合長		横山 卓三													
	副 組 合 長		渡部 定美													
	専 務		荒 昭悦													
	常 務 理 事		鈴木 和比古		志賀 正男											
	常 任 理 事		志賀 清人		堀内 榮八		佐々木 清明									
	理 事	目黒 静雄		荒 健二郎		林 隆雄		大堀 二郎		名取 純		森 弘平				
		寺島 清一		佐藤 文正		山内 安義		阿部 恒清		蒔田 勇		佐々木 文朗				
		阿部 定見		久田 好孝		只野 孝一		阿部 博		門馬 昭治		福山 正信				
		寺島 貞悦		荒 信一		村松 征吉		山田 一男		唯野 哲夫		海月 吉信				
		大塚 善光		佐藤 光威		早川 勇		北山 春夫		天野 有光		榎内 正				
		三浦 忠三		但野 重光		小川 弘		田村 啓一		田村 昌之		清信 幹男				
		大越 昇		桑折 馨		松崎 宗雄		根本 功		館野 幸夫		佐藤 好正				
		小林 光吉		青田 光彦		瀬川 泰彦		高野 将博		村田 恒明		増田 藤雄				
		新川 福巳		高橋 一美		村上 靖一		田中 誠一		境 勝明		内藤 一				
		佐々木 雄司		木幡 芳信		志賀 正一郎		酒本 勝俊		湊 清一		佐藤 公一				
		林 二三男		鎌田 則良		馬場田 清一		眞壁 昌一		山邊 勝美		渡部 泰之				
		菅野 秀一		志賀 清光		渡辺 一成		松本 日出男		平田 良則		小林 正幸				
		志賀 一夫		石川 昭男		鈴木 森介		阿部 良信		渡部 義綱		古内 弘				
		渡部 栄助		高橋 亮堯		涌谷 天二		松原 功典		林 重治		原田 正一				
		下枝 直一		開沼 幸一		高橋 利彦		花井 秀男		佐野 幸正		菅野 岑				
		菅野 永徳		坂本 永寿		高橋 則雄		山田 長清								
代 表 監 事		井戸川 宏綱														
副 代 表 監 事		渡部 克雄														
常 任 監 事		高田 重利														
監 事	渡部 栄太郎		寺島 貞弘		佐藤 茂樹		嶋原 善次郎		鈴木 登		津田 喜造					
	佐藤 光世		中里 敬久		大和田 為易		今野 光喜		山田 福高		村井 友清					
	鈴木 操		杉原 満		白瀬 吉秋		林 幸一郎		佐藤 恒行		水谷 堯宣					
	梅田 利昭		佐藤 典雄		赤石澤 備		大滝 建一郎		高橋 香							

第 2 期 自 平成 9 年 4 月 12 日 至 平成 12 年 5 月 31 日	代表理事組合長		横山 卓三									
	副 組 合 長		荒 昭悦									
	専 務		鈴木 和比古									
	常 務 理 事		堀内 榮八		眞壁 昌一							
	理 事	目黒 静雄	名取 純	久田 好孝	門馬 昭治	寺島 貞悦	荒 信一					
		山田 一男	海月 吉信	早川 勇	大越 昇	松崎 宗雄	但野 重光					
		鈴木 良重	佐藤 公一	村上 靖一	高田 重利	山邊 勝美	林崎 輝夫					
		佐々木 清明	泉田 昭	涌谷 天二	松本 昭徳	志賀 正男	花井 秀男					
	代 表 監 事		渡部 克雄									
	常 任 監 事		森 義光									
監 事	佐藤 茂樹	鈴木 登	遠藤 貢	田中 誠一	林 幸一郎	井戸川 宏綱						
	赤石澤 備											

第 3 期 自 平成12年5月31日 至 平成15年5月29日	代表理事組合長	横山 卓三 (～平成13年6月22日)	荒 昭悦 (平成13年6月22日～)							
	専 務	森 義光								
	常 務 理 事	鈴木 良重	水谷 堯宣							
	理 事	目黒 静雄	加藤 文和	久田 好孝	横山 卓三 (平成13年6月22日～)	門馬 昭治	寺島 貞悦			
		荒 信一	山田 一男	海月 吉信	青田 敏信 (平成14年5月31日～)	大越 昇	酒井 達夫			
		遠藤 祐輔	折笠 寛昭	佐藤 公一	高田 重利 (～平成15年2月28日)	内藤 一	田中 久治			
		眞壁 昌一	林崎 輝夫	平田 武	井戸川 宏綱	日下 邦弘	藤 正昭			
		志賀 正男	菅野 今朝男	会田 征男						
	代 表 監 事	渡部 克雄								
	常 任 監 事	田中 隆雄 (～平成13年5月30日)	牛渡 英一 (平成13年5月30日～)							
	監 事	菊地 久光	津田 喜造	松崎 宗雄	堀内 清隆	林 幸一郎	荒木 光彦			
		赤石 澤備								
	員 外 監 事	佐藤 達彦 (平成14年5月31日～)								

第 4 期 自 平成 15 年 5 月 29 日 至 平成 18 年 5 月 28 日	代表理事組合長		森 義光													
	専 務		鈴木 良重													
	常 務 理 事		水谷 堯宣		阿部 信一											
	理 事		荒 昭悦 (~平成 17 年 3 月 30 日)		佐藤 律夫 (平成 17 年 5 月 31 日~)		目黒 静雄		加藤 文和		青田 敏信		荒 信一			
			海月 吉信		桑折 健一		寺島 貞悦		山田 一男		酒井 達夫		大越 昇			
			遠藤 祐輔		折笠 寛昭		佐藤 公一		内藤 一		田中 久治		今田 春男			
			平田 武		原田 弘毅		林 幸一郎		井戸川 宏綱		日下 邦弘		遠藤 喜一			
			会田 征男		青田 惣助		八巻 誠									
	代 表 監 事		堀内 清隆													
	常 任 監 事		渡部 克雄													
監 事		菊地 久光		津田 喜造		小野田 功		本間 健一		荒木 光彦		菅野 哲男				
学 経 監 事		牛渡 英一														
員 外 監 事		海老沼 四郎														

第 5 期	代表理事組合長	鈴木 良重										
	専 務	遠藤 祐輔										
自 平成18年5月28日 至 平成21年5月30日	常 務 理 事	今村 秀身	会田 征男									
	理 事	目黒 静雄	加藤 文和	佐藤 律夫	阿部 信一	田代 知功	桑折 健一					
		佐藤 保彦	星 保武	山田 一男	唯野 哲夫	小野田 功	酒井 達夫					
		折笠 寛昭	佐藤 公一	内藤 一	田中 久治	平田 武	原田 弘毅					
		本間 健一	井戸川 宏綱	日下 邦弘	鈴木 敬徳	門馬 國道	星 一治					
		八巻 誠	長澤 弘子									
	代 表 監 事	堀内 清隆										
	常 任 監 事	渡辺 徹郎										
監 事	菊地 久光	牛渡 英一	郡 芳一	林 勝典	大東 勇							
員 外 監 事	海老沼 四郎											

第 6 期 自 平成 21 年 5 月 30 日 至 平成 24 年 5 月 26 日	代表理事組合長	鈴木 良重										
	専 務	遠藤 祐輔										
	常 務 理 事	今村 秀身	会田 征男									
	理 事	加藤 春男	佐藤 律夫	後藤 一茂	星 保武	田代 知功	山田 一男					
		大橋 一照	桑折 健一	唯野 哲夫	伊東 康夫	酒井 達夫	折笠 寛昭					
		小野田 功	佐藤 公一	内藤 一	田中 久治	平田 武	原田 実誠					
		伏見 利政	日下 邦弘	鈴木 敬徳	門馬 國道	佐藤 直美	八巻 誠					
	渡邊 芳孝	長澤 弘子										
代 表 監 事	堀内 清隆											
常 任 監 事	渡辺 徹郎											
監 事	菊地 久光	牛渡 英一 (～平成 24 年 3 月 21 日)	鈴木 清教	林 勝典	大東 勇							
員 外 監 事	佐原 茂											

第 7 期 至 平成 27 年 5 月 30 日 平成 24 年 5 月 26 日	代表理事組合長		内藤 一											
	専 務		今村 秀身											
	常 務 理 事		渡辺 徹郎		八巻 誠									
	理 事	後藤 一茂		井上 敏夫		山田 一男		星 保武		田代 知功		桑折 健一		
		寺島 英雄		折笠 寛昭		佐藤 秀邦		多田 和夫		前田 敏郎		濱名 弘仲		
		林 一重		大畑 智由		門馬 國道		佐藤 直美		渡邊 芳孝		伊東 千恵子		
	代 表 監 事		菊地 久光											
	常 任 監 事		濱田 賢次											
監 事		渡部 一義		荒 美代子		伏見 利政		林 勝典		大東 勇				
員 外 監 事		佐原 茂												

第 8 期 自 至 平成 27 年 5 月 30 日 現在	代表理事組合長	今村 秀身											
	専 務	星 保武											
	常 務 理 事	半谷 善弘		濱田 賢次									
	理 事	後藤 一茂		井上 敏夫		山田 一男		桑折 健一		山田 秀晴		寺島 英雄	
		多田 和夫		上谷地 一弘		早川 孝雄		前田 敏郎		濱名 弘仲		井上 幸一	
		大畑 智由		佐藤 直美		鈴木 清延		八巻 誠		渡邊 芳孝		伊東 千恵子	
	代 表 監 事	菊地 久光											
常 任 監 事	荒 美代子												
監 事	渡部 一義		佐藤 秀邦		志賀 義一		林 勝典		大東 勇				
員 外 監 事	佐原 茂												



写真左より、半谷善弘常務、星 保武専務、今村秀身組合長、荒 美代子常任監事、濱田賢次常務

組織活動（部会・女性部・農青連）

※数字は構成員数

(平成)	8 年	9 年	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年
支部長会長連絡協議会	門馬宇久 303	門馬宇久 303	門馬宇久 303	山田 博 303	山田 博 303	山田 博 303	山田 博 303	山田 博 303	山田 博 303	山田 博 303
青年連盟	只野孝一 370	三浦健治 366	島 光春 366	小島良金 361	小島良金 372	小島良金 349	須藤 一 349	須藤 一 331	須藤 一 319	星 一充 333
女性部	高江智子 2,397	高江智子 2,457	佐藤美喜子 2,343	長澤弘子 1,976	長澤弘子 1,765	長澤弘子 1,596	長澤弘子 1,487	長澤弘子 1,475	長澤弘子 1,317	長澤弘子 1,260
ふれ愛グループ協議会	青木ヨシ子 263	青木ヨシ子 274	遠藤節子 284	牛河内敬子 288	牛河内敬子 307	牛河内敬子 318	牛河内敬子 335	牛河内敬子 328	牛河内敬子 328	牛河内敬子 318
園芸部会				山下 章 1,362	山下 章 1,413	山下 章 1,574	佐々木啓記 2,045	佐々木啓記 1,552	佐々木啓記 1,824	佐々木啓記 2,142
梨部会		坂下五雄 143	寺内毅敬 139	寺内毅敬 138	寺内毅敬 138	寺内毅敬 128	寺内毅敬 125	寺内毅敬 128	斉藤晃一 128	斉藤晃一 128
大地直売部会										
肉牛部会			門馬 勇 27	門馬 勇 27	門馬 勇 24	門馬 勇 22	伊東博道 22	伊東博道 21	伊東博道 21	伊東博道 21
肉用牛繁殖部会連絡協議会				菅野義人 535	山田長清 476	山田長清 432	山田長清 432	山田長清 427	山田長清 413	山田長清 393
そうま和牛改良組合										
酪農部会		長沢貞雄 45	長沢貞雄 44	長沢貞雄 42	長沢貞雄 42	長沢貞雄 43	大窪素夫 38	大窪素夫 37	長谷川健一 35	長谷川健一 35
いしがみ牛部会							伏見利政 12	伏見利政 12	伏見利政 12	伏見利政 12
畜産未来の会										
養豚部会				花井徳康 13	花井徳康 13	花井徳康 13	花井徳康 10	花井徳康 10	泉 将鬼 5	泉 将鬼 5
養蚕部会	林 隆雄 28	林 隆雄 28	林 隆雄 26	林 隆雄 23	林 隆雄 23	林 隆雄 13	林 隆雄 11	林 隆雄 12	林 隆雄 10	林 隆雄 10
種苗部会		只野孝一 13	只野孝一 13	只野孝一 13	只野孝一 13	只野孝一 13	八津尾初夫 14	八津尾初夫 16	八津尾初夫 16	八津尾初夫 16
稲作部会									牛安沢孝行 3,048	牛安沢孝行 3,048
花卉部会連絡協議会									三浦健治 181	三浦健治 182
トルコギキョウ生産部会										
麦部会										
大豆部会										
稲 WCS 供給組合										
稲 WCS 利用組合										
本店運営委員会	柚原 幸 18	柚原 幸 18	柚原 幸 18	柚原 幸 18	柚原 幸 18	志賀勝明 18	志賀勝明 18	志賀勝明 18	志賀勝明 18	牛安沢孝行 18
年金友の会		草野 肇 8,408	三本松由松 8,408	草野 太 8,473	草野 太 8,473	寺島俊夫 8,433	寺島俊夫 8,475	寺島俊夫 8,732	寺島俊夫 8,644	寺島俊夫 8,844

※数字は構成員数

(平成)	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
支部長会長連絡協議会	錦織光三 303	錦織光三 302	錦織光三 301	錦織光三 293	遠藤喜一 287	遠藤喜一 285	遠藤喜一 277	遠藤喜一 277	吉迫俊清 277	島 一 277
青年連盟	遠藤友彦 338	遠藤友彦 329	西 達也 319	西 達也 302	鈴木孔明 300	遠藤一美 253	遠藤一美 249	只野智由 187	今野拓也 181	木幡竹利 181
女性部	須江恵子 1,148	須江恵子 1,134	須江恵子 976	須江恵子 960	伊東千恵子 938	伊東千恵子 911	伊東千恵子 749	半谷真知子 655	半谷真知子 670	半谷真知子 670
ふれ愛グループ協議会	西チイ子 312	西チイ子 303	門馬孝子 296	門馬孝子 293	岡田ミサ子 264	岡田ミサ子 256	岡田ミサ子 221	岡田ミサ子 208	但野峰子 200	但野峰子 200
園芸部会	須藤安丸 1,824	須藤安丸 1,824	井戸川定弘 1,140	井戸川定弘 1,140	大和田英臣 1,148	大和田英臣 1,137	大和田英臣 1,137	大和田英臣 1,137	渡部三雄 1,079	渡部三雄 1,079
梨部会	斉藤晃一 117	斉藤晃一 112	佐藤健一 108	佐藤健一 108	佐藤健一 102	佐藤健一 96	辺見勝博 91	辺見勝博 88	辺見勝博 86	辺見勝博 81
大地直売部会									志賀義一 115	志賀義一 115
肉牛部会	和田山孝明 18	和田山孝明 18	和田山孝明 15	和田山孝明 15	和田山孝明 15	和田山孝明 14	和田山孝明 6	和田山孝明 5	和田山孝明 12	和田山孝明 11
肉用牛繁殖部会連絡協議会	志賀三男 369	志賀三男 357	志賀三男 343	志賀三男 326	志賀三男 309	志賀三男 303	横山元栄 66			
そうま和牛改良組合								横山元栄 63	荒川正孝 53	荒川正孝 52
酪農部会	長谷川健一 33	長谷川健一 31	水戸睦夫 29	水戸睦夫 28	伏見克則 28	伏見克則 27	伏見克則 14	伏見克則 14	瀧澤昇司 13	瀧澤昇司 13
いしがみ牛部会	小倉敏孝 12	小倉敏孝 12	小倉敏孝 11	小倉敏孝 11	小倉敏孝 11	小倉敏孝 12	小倉敏孝 9	小倉敏孝 9		
畜産未来の会								大谷知徳 23	大谷知徳 21	大谷知徳 21
養豚部会	三浦秀一 5	三浦秀一 5	花井徳康 5	花井徳康 3	花井徳康 4	花井徳康 3				
養蚕部会	林 隆雄 9	但野安俊 7	但野安俊 7	但野安俊 7	但野安俊 7	但野安俊 6	小林光一 4	小林光一 4		
種苗部会	八津尾初夫 16	但野吉孝 14	庄司直己 14	庄司直己 14	門馬博之 14	門馬博之 12	只野智由 7	只野智由 6	只野智由 6	只野智由 6
稲作部会	牛安沢孝行 3,177	牛安沢孝行 3,228	牛安沢孝行 3,247	牛安沢孝行 2,974	佐藤良一 3,121	佐藤良一 782	佐藤良一 810	佐藤良一 824	佐藤保彦 883	佐藤保彦 883
花卉部会連絡協議会	三浦健治 185	三浦健治 120								
トルコギキョウ生産部会										掘千夏子 19
麦部会				島 光春 21	島 光春 22	島 光春 24	島 光春 20	島 光春 12	佐々木教喜 10	佐々木教喜 10
大豆部会				島 高明 36	島 高明 31	島 高明 35	島 高明 36	島 高明 14	菅野美男 10	菅野美男 10
稲 WCS 供給組合				桑折健一 6	桑折健一 15	桑折健一 15	桑折健一 8	桑折健一 8	桑折健一 8	桑折健一 8
稲 WCS 利用組合				横山元栄 33	横山元栄 41	横山元栄 41	横山元栄 41	横山元栄 41	横山元栄 41	横山元栄 41
本店運営委員会	牛安沢孝行 18	牛安沢孝行 18	錦織光三 18	錦織光三 18	田代貢一 17	遠藤喜一 18	遠藤喜一 18	遠藤喜一 18	井上幸一 18	井上幸一 18
年金友の会	青田忠雄 8,735	青田忠雄 8,740	原田武士 8,862	原田武士 9,270	原田武士 9,769	原田武士 9,700	長澤忠人 10,162	長澤忠人 10,667	石田功一 10,966	石田功一 11,079

JA 組織活動と事業・運営の更なる活性化をめざして

●出席者

支部長会会長連絡協議会会長

島 一さん

農業者青年連盟委員長

木幡 竹利さん

女性部部长

半谷 真知子さん

代表理事組合長

今村 秀身

代表理事専務

星 保武



■東日本大震災・原発事故から4年が経過し、まだ厳しい状況が続いていますが、今後の農業・農村、JAのあり方についてどのように感じになりますか。

今村:戦後、様々な法・制度改正により、規制緩和・農産物の輸入自由化が進み、農業・農村、JAは長く厳しい道を歩んできました。今また、アベノミクス政策の下、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）問題で、米はじめ農産物の輸入が更に拡大されようとしています。また、農協改革の動向など、JAは大きな渦の中に巻き込まれようとしています。



今村 秀身組合長

平成8年3月のJA そうま合併は、厳しい環境に立ち向かうための基盤づくりでしたが、合併後7年間ほどは、事業損益のマイナスが続くなど、経営は容易ではありませんでした。現在、平成28年3月を目標とした福島県北地区4JA合併の取り組みを進めていますが、過去の反省に立ち、しっかりと準備を進めたいと考えています。

平成23年3月東日本震災・原発事故から4年数か月経過し、多くの支援をいただきながら復興に向けた取り組みを進めてきましたが、いよいよ自力再生を図る正念場を迎えているとも考えています。

合併20周年の節目に当たり、来し方を振り返るとともに、今後・将来にも思いを馳せて、JAの組織活動や事業・運営のあり方を論じていきたいと思っています。

星:他の企業にはないJAの強みは、組合員組織活動にあると思っています。JAとしては、組合員組織活動をしっかり支援して、農家組合員の皆さんの営農とくらしの向上につなげていきたいと考えています。

■魅力があふれ、選ばれる JA づくりのために、
どのようなことが必要だと思いますか。

島：JA はいろいろ努力していますが、組合員にとっては選択肢の一つとなっており、メリットがなければ利用しないという考えがあります。また、組合員の JA 離れも心配されているところです。地域の農業を守り、組合員の営農とくらしを向上させるうえで、JA が「かけがえのない存在」であり、「魅力」と映るよう、更に努力してほしいと思います。

今村：組合員の皆様に選んでいただけるような JA づくりを進めてまいります。一方で、農業や JA の有りようを導いてきた農業政策にも問題があるようにも思います。JA の政治力・農政運動が弱くなってきたため、現場の声が国政に届かなくなってきた。最近、農業以外の議論でも、国民の思いとちょっと外れるような発言をする国会議員も見受けられますね。国政に農業者の声を反映させるため、JA グループの力を結集する活動・行動を強化していかなければならないと思います。

■現在の農業政策から見て、今後 JA はどのような方向に向かうべきなのでしょう。

半谷：震災後、不耕作が続き、米を作って食べるのではなく、買って食べることに慣れてしまった感があります。農業所得が確保されないこともあり、結果的に耕作放棄地が増えています。耕作されない農地は固定資産税を高くするような考え方など、行政はおかしな方向に向かっている気がします。



半谷 真知子さん



島 一さん

今村：財界の農業攻撃・侵略の一環であり、政府が唱える「強い農業づくり」とは一体何なのか、大いに疑問があります。JA は、現在の農政にメスを入れ、正していかなければなりません。

農産物輸入を拡大し、食糧を外国に求めていくことは、世界の食糧危機を煽ることになりかねません。現在の政治は、財界を偏重して農業をないがしろにし、国を危険な方向に導く流れのように思えてなりません。

現在の TPP 問題にも、「ノー」と反対の姿勢を明確にし、具体的な行動・運動を展開していかなければならないと思います。

■JA が守っていかなければならないものとは、何だと思いますか。

半谷：農業者と漁業者との連携など、幅広い輪の中で組織的に運動していかなければなりません。山を守ることが水を守り、海を守ることにもつながる。田んぼを守るとは、地球温暖化の防止にもつながる。農業はいろいろな分野と密接につながっているわけですから。

今村：山や森から果実を奪ってしまったことが、今日の有害鳥獣被害の問題にもつながっています。駆除ばかりではこの問題を解決できません。関係者の連携作業で、山を元の姿に蘇生させなければなりません。

■合併を機に組織として期待されることは、どのようなことですか。

木幡：県北 4 JA の中には、農青連が組織化されていないところもあるようで、合併後、農青連の組織がどういう形になるのか見えません。

未組織・空白の地区があると、農青連活動全体に、いろいろ問題が出てくるように思います。合併後は、農青連や組合員組織が全域で展開できるようにしていかなければならないと思います。

今村：農青連も含め組合員組織については、合併したからといって統合したり、一部の地区しかない組織を廃止することがあってはならないと考えています。各 JA の組織は支部のような形で継続し、本店段階に本部・連絡協議会的なものを設置することになると思います。地域密着の考え方に立ち、店舗統廃合も行いません。農青連がない JA（地区）に組織を作るような働きかけも期待したいですね。

また、女性が農青連に加入して活性化させることや、年配の方も加入・活動が続けるような仲間づくりがあってもよいと思います。他県では、「青壮年部」と名付けている事例もあります。

半谷：若い世代も組織活動に参画いただくため、「フレッシュミズ」部会を設立しようとしています。若い人もお年を召した方もあらゆる世代の方々が、ネットワークを作り、仲間となっていけたら素晴らしいですね。

■農業所得を確保するために、具体的にどのような取り組みが必要になりますか。

今村：農業所得を確保するためには、契約栽培など多種多様なチャネル（経路・形態）により有利販売を進めることに加えて生産コスト削減が求められます。JA では仕入先・全農と折衝し、資材価格の引き下げを図っていますが、合併後は、大量取引を背景に入札導入なども検討しています。



木幡 竹利さん

半谷：資材価格は安いことに越したことはないですが、多少高くても消費者の目線・ニーズに合わせた包装資材等を使うことも必要な場合がありますね。

消費者に選ばれる、魅力ある農産物を提供することが、有利販売・農業所得アップにつながるはずです。

■JA が最も大事にすべきことは、どのようなことだと思いますか。

島：JA は「農業協同組合」であり、人と人とのつながり、対話が大事だと思います。今後も農家組合員の声を大切にして、JA 事業・運営を進めていただくようお願いします。

星：ご心配のお声や評価、意見・要望など、いろいろお話しいただきありがとうございました。JA に対する期待・エールと受け止め、今後も組合員本位の事業・運営を進めてまいります。



星 保武専務

——皆さん、ありがとうございました。

20年のあゆみ

■JAそうま誕生

農業・農協を取り巻く環境は、「輸入自由化」「産地間競争」「担い手不足」等、社会・経済情勢のめまぐるしい変化の渦中にありました。

このような環境変化に即応し、多様なニーズに応える体制整備や強化を目的とし、組合員・地域の皆さまの負託に応える強固なJAを構築するため、平成8年3月1日に、JA新地町、JA相馬市、JA相馬鹿島町、JA原町市、JA石神、JA小高町、JA飯舘村の7JA(2市3町1村)が合併し発足しました。



JA合併発足式

平成8・9年度

本組合の出来事

平成8年

- 3月23日 ● **女性部設立総会**
合併を機に、婦人部から女性部へ名称を変更し新しくスタート。
- 4月9日 ● **農青連設立総会**
従来の7JAの農青連を一つに結成し情勢に即応した活動をスタート。
- 5月30日 ● **相馬中村カントリーエレベーターが完成し竣工式**
籾を傷めず自然風で最適乾燥するシステムを採用し、「今摺米」としてのおいしい米の仕上げが可能となる。



女性部・農青連活動発表大会



女性部原町方部「朝市」

平成9年

- 1月14日 ● **上真野支店落成**
- 3月28日 ● **ふれ愛グループ協議会設立総会**
合併旧7JAの助けあい組織が一つに結成し、ふれあいグループ協議会としてスタート。
- 4月12日 ● **第1回通常総代会**
合併後初の総代会が開催され、役員改選による新役員が選出。
- 12月1日 ● **配送センター開所式**
コスト低減効果を価格へ反映させ配送の合理化を図る。



第1回通常総代会

■その他

平成9年(1997年)

6月20日 **梨部会設立総会**

7月11日 **酪農部会設立総会**

平成10年(1998年)

1月22日 **小高カントリーエレベーター起工式**

社会の出来事

- ・百武すい星大接近(平成8年3月)
- ・アトランタオリンピック開幕(平成8年7月)
- ・消費税5%に引き上げ(平成9年4月)
- ・長野市で冬季オリンピック開催(平成10年2月)

本組合の出来事

平成10年

- 4月6日 ● 新地育苗センターが稼働
- 4月23日 ● 新型播種機で直播作業
- 9月7日 ● 小高カントリーエレベーター竣工式
組合員が望んでいたカントリーが竣工、米の乾燥・出荷の経費節減を図り、生産性の向上をめざす。

■その他

平成10年(1998年)

- 5月2日 新品種「まなむすめ」乾田直播栽培実地(相馬中村総合支店管内)
- 6月1日 相馬市セリ組合設立30周年記念大会
- 6月17日 肉牛部会設立総会
- 7月3日 養豚部会設立総会
- 7月31日 園芸部会設立総会



献上用「御田植祭」



第3回J'Aまつり

社会の出来事

- ・サッカーW杯フランス大会に初出場(6月)
- ・世界初のクローン牛が日本で誕生(7月)
- ・和歌山毒物カレー事件発生(7月)
- ・EU単一通貨ユーロ導入(平成11年1月)

本組合の出来事

平成11年

- 3月25日 ● 原町育苗センター引渡し
当JAが事業主体となり高平グリーンファームが運営するセンターが完成。
150ヘクタール分の生産能力を持つ。
- 9月20日 ● 飯舘トマトジュース生産
塩分控えめでまろやかな飯舘産トマトジュースを6千ケース生産。
- 10月7日 ● 福祉課業務開始
身体介護・家事援助といった高齢者福祉サービス活動をスタート。

■その他

平成11年(1999年)

- 6月4日 相馬馬場野SSリニューアルオープン
- 8月20日 Aコープかしま店が閉店



第3回生活文化発表会



第4回J'Aまつり(飯舘)

社会の出来事

- ・ユーゴスラビア・コソボ紛争でNATOが空爆(3月)
- ・茨城県東海村で臨界事故発生(9月)
- ・2000年問題(平成12年1月)

本組合の出来事

平成12年

- 5月1日 ● **JAそうまホームページ開設**
最新情報の発信や地域の身近な情報の提供を開始する。
- 8月17日 ● **豪華客船「飛鳥」相馬港寄港**
日本一の豪華客船による企画旅行で「函館・秋田クルーズ」を実施。
- 12月1日 ● **花卉部会が販売額1億円を突破**
沖縄市場への出荷や新規市場開拓・飯舘村の協力によって初の1億円を達成する。



上真野小で稲作教室



かぼちゃ指導会

■その他

平成12年(2000年)

8月25日 福祉事業 利用者のつどい

社会の出来事

- ・日銀が「量的緩和政策」を導入(3月)
- ・介護保険制度施行(4月)
- ・新紙幣2000円札発行(7月)
- ・台風3号が管内を直撃(7月)

本組合の出来事

平成13年

- 5月7日 ● **IT技能講習会を開催**
パソコンの普及により、地域の方を対象とした基本操作やインターネット利用講習会を開催。
- 9月25日 ● **民間検査員による米検査スタート**
米検査が民間に移行されることに伴い、管内初となる検査資格を取得した検査員による検査が行われる。
- 12月9日 ● **食材利用者のつどい**
日頃の利用に感謝し、立食バイキングやマグロの解体ショーが行われた。



IT講習会



食材利用者の集い

社会の出来事

- ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが大阪にオープン(3月)
- ・国内初の狂牛病(BSE)感染牛発見(9月)
- ・東京ディズニーシーがオープン(9月)

本組合の出来事

平成14年

- 5月1日 ● **食材センターオープン**
支店毎の宅配業務を集約し、配送の効率化を図る。
- 5月25日 ● **農産物直売所「旬のひろば」オープン**
「地産地消」の取り組みや生産者の顔が見える新鮮で安全・安心な農産物の提供のため原町区にオープンする。

■その他

平成14年(2002年)

6月6日 **黄色いハート料理コンテスト**



カボチャ料理コンテスト



ちびっ子料理コンテスト

社会の出来事

- ・ペイオフ(預貯金保険制度)が解禁(4月)
- ・ゆとり教育スタート(4月)
- ・サッカーW杯日韓大会開催(5月)
- ・小泉総理が日本の首相で初の北朝鮮訪問(9月)

本組合の出来事

平成15年

- 3月11日 ● **旅行センター本店移設**
事務所を相馬中村総合支店から本店前に移転し営業。
- 5月7日 ● **梨部会で性フェロモン剤導入**
梨の害虫の発生を抑え、殺虫剤を減らすことで、安全・安心な梨の生産が可能となる。
- 8月22日 ● **異常気象による農産物生育調査**
低温・日光不足の影響で農作物の生育に影響を受け、この年はJAまつりの開催を見送る。

■その他

平成15年(2003年)

3月20日 **農業者政治連盟そうま支部設立総会**

5月29日 **第7回通常総代会**

9月12日 **ホルスタイン3.8牛乳10周年記念祝賀会**

平成16年(2004年)

1月6日 **中村みなみ支店起工式**

2月2日 **事業3大改革(マックスサービスそうま設立)**



冷害調査



パンジー・ビオラ苗出発式

社会の出来事

- ・新型肺炎(SARS)が大流行(11月)
- ・自衛隊イラク派遣(平成16年1月)

JAそうま組織・事業3大改革

①支店統廃合

支店・事業所・施設の再編(26支店・1事業所→11支店・2出張所)

金融業務の専門性・高度化を発揮し、利用者へのサービス向上を目的として、平成16年3月(第1次)から段階的に、平成17年3月(第2次)、平成20年5月に実施される。

再編統合のメリット	再編統合のデメリット
●職務の専門化による組合員・利用者への知識・商品の提供 ●バランスの良い支店・出張所の配置による利便性向上 ●遊休不稼働資産の利活用並びに処分による固定資産の圧縮 ●職員配置の見直しによる労働生産性向上 ●施設管理費用の削減	●支店の削減による、組合員・利用者への窓口サービスの低下 ●JAとの結びつきの希薄化 ●支店の遠隔化による利便性の低下 ●農協資産の処分に対する抵抗感

再編統合による代替処置

- 支店中心の「待ち」の業務体系から、自宅訪問中心の「出向く」サービス業務体系による接点強化
- 年金受給者への、自宅で貯金払い戻しができる年金宅配制度の実施
- 専門的知識を有する職員による渉外(LA・MA)活動体制の充実・強化
- 振替機能付きATMの設置

②燃料・農機・自動車事業の分社化

専門教育の充実による専門的知識・技能を発揮し、ローコスト運営によるサービスの充実を目的として平成16年2月にJAそうまより分社化し「マックスサービスそうま」として子会社を設立する。

③事務センター設置

本店のスリム化による間接経費の削減、定型事務の集約による業務効率の改善を図ることを目的として、平成16年3月に業務を開始する。

センター設置による効果

- コストの削減
多重管理から一元管理による統一した事務処理ができ、少人数で対応が可能となる。
- 渉外体制の拡充と強化
本店のスリム化により、渉外担当者の増員可能となる。
- 事務処理の専門化
事務処理の専門員の配置により、複雑化・高度化する事務処理が可能となる。

本組合の出来事

平成16年

3月1日

● マックスサービスそうま営業開始
(平成16年2月2日 設立)

3月15日

● JAそうま組織・事業3大改革

- ・ 中村みなみ支店竣工・オープン業務開始
(飯豊・八幡・日立木・磯部支店を統合)
- ・ 相馬中村総合支店業務開始
(相馬中村総合・中村東部・大野・黒木・山上支店を統合)
- ・ 玉野支店から玉野出張所に名称変更
- ・ 小高総合支店業務開始
(小高総合・小高業務所を統合)
- ・ 飯樋支店から飯樋出張所に変更
- ・ 本店内に事務センター設置、業務開始

3月23日

● 稲作部会設立総会

平成17年

2月25日

● 組織・事業3大改革

- ・ 原町総合支店竣工・オープン、業務開始
(原町総合・原町駅前・太田・大甕支店を統合)

■ その他

平成16年(2004年)

5月26日 第8回通常総代会

平成17年(2005年)

1月27日 臨時総代会
(定款の一部変更について)

社会の出来事

- ・ 日朝首脳会議により拉致被害者5人が帰国(5月)
- ・ アテネオリンピック開催(8月)
- ・ 日本プロ野球選手会が史上初のストライキ決行(9月)
- ・ プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」誕生(11月)



稲作部会設立総会



肉牛共進会



農青連ソフトボール大会



原町総合支店新築工事安全祈願祭

本組合の出来事

平成17年

3月14日

● 支店統廃合(第2次)

- ・ 原町西支店業務開始
(石神・大木戸支店を統合)
- ・ 鹿島総合支店業務開始
(鹿島総合・鹿島駅前支店を統合)
- ・ 新地総合支店業務開始
(新地総合・福田支店を統合)



ふれあい旬のひろばオープン

5月27日

● 農産物直売所「ふれあい旬のひろば」オープン

直売所2号店が相馬市にオープンし、直売所会員100名とともに地元の朝どり野菜販売。



ナシ剪定指導会

10月26日

● 飯館野菜出荷所落成

園芸作物の一元出荷と真空予冷による有利販売をめざし、農業生産の拠点として建設。

平成18年

2月8日

● やすらぎ会館(原町斎場)竣工式

JAそうまやすらぎ会館(原町斎場)竣工式。

自宅葬から会館葬への移り変わり、一貫したまごころサービスを提供。



稲穂つけ

■ その他

平成17年(2005年)

5月27日 第9回通常総代会



合併10周年記念式典

社会の出来事

- ・ 郵政選挙で自由民主党が大勝(9月)
- ・ トリノオリンピック開催(平成18年1月)

本組合の出来事

平成18年

4月3日

● 小高福祉センター開所式

元気高齢者対策支援や居宅介護支援事業の拠点として開所する。

平成19年

2月20日

● 園芸振興大会を開催

管内園芸作物の普及と多様な産地形成をめざすために開催される。

■ その他

平成18年(2006年)

5月28日 第10回通常総代会

社会の 出来事

- ・第1回野球WBCで日本が優勝(3月)
- ・サッカーW杯ドイツ大会開催(6月)



WTO署名活動



田んぼ生き物調査



女性部クッキングフェスタ



黄色いハート焼酎発表会

本組合の出来事

平成19年

5月22日

● 第1回女性スクール開校式

地域の力である女性の暮らしや趣味に関する学びの講座を開講する。

11月17日

● 第1回組合長杯ゴルフ大会を開催

組合員・利用者の親睦やJA事業への理解を深めることを目的に開催。

■ その他

平成19年(2007年)

5月27日 第11回通常総代会

11月1日 特裁米「浜ちゃん」精米宅配を始める

社会の 出来事

- ・新潟県中越沖地震が発生(7月)
- ・郵政民営化がスタート(10月)



「食と生命を守る自転車キャラバン」



年金セミナー



女性スクール(わらじ作り)



いきいきくらぶ鹿島

本組合の出来事

平成20年

5月12日

● 新地総合支店新店舗オープン

駒ヶ嶺支店と統合し、現在の場所に新築する。



新地総合支店竣工式

7月25日

● 農産物直売所「旬のひろばいいたて」オープン

管内3店舗目となる直売所をオープンし、地場産の旬の野菜や花類の販売を始める。

8月21日

● 「いきいきくらぶ相馬」開所

元気高齢者活動拠点としての施設を開所し、いきがいくりのための健康教室等を開く。



女性部運動会

11月11日

● 「やすらぎ会館小高」がオープン

地域の方の要望に応えるため、管内2施設目となる会館がオープンする。

■ その他

平成20年(2008年)

5月24日 第12回通常総代会

7月22日 JAのATM利用時間外手数料が無料に

8月2日 人形・ぬいぐるみ供養祭

肥料・飼料など生産資材や燃油価格が高騰(生産資材高騰対策費として総額7,400万円を助成)

暮らしを支える事業の「食農教育」始まる



「旬のひろばいいたて」オープン

社会の出来事

- ・北海道洞爺湖町でG8サミット開催(7月)
- ・北京オリンピック開催(8月)
- ・大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻(11月)
- ・アメリカ合衆国第44代大統領にバラク・オバマ氏が就任(平成21年1月)



「農産物直売所」お盆セール

本組合の出来事

平成21年

4月13日

「いきいきくらぶ新地」開所

4施設目となる元気高齢者施設で、安心して暮らす為の集いの場所として開所する。



小学生花粉付け体験

8月3日

イオン直売所「大地」オープン

初の大型ショッピングセンター内にオープンし、地元の安全・安心な新鮮野菜を販売する。



女性スクール（味噌づくり）

平成22年

1月26日

「やすらぎ会館相馬」オープン

北部地区に管内3施設目となる待望の葬祭会館がオープンする。



直売所「大地」オープン

その他

平成21年(2009年)

5月30日 第13回通常総代会

10月3日 第1回JAそうまカップ卓球大会

社会の出来事

- ・アメリカ合衆国の歌手マイケル・ジャクソンさんが死去(6月)
- ・第45回衆議院議員選挙で民主党が第1党に躍進(8月)
- ・バンクーバーオリンピック開催(平成22年2月)



やすらぎ会館相馬竣工式

本組合の出来事

平成22年

9月29日 ● 飯館ブロッコリー出荷場稼働式

10月9日 ● 組合員宅一斉訪問デー開始

毎月第2土曜日、全職員が組合員宅を一斉訪問し、広報誌ひろば他各種情報を提供、ふれあい・対話活動を開始。

11月20日 (27日) ● 合併15周年記念企画・映画「アンダンテ～稲の旋律～」上映会 (28日) (3会場・7回上映)

11月23日 ● JAそうまアグリフェア

最新の農業生産技術・研究成果等を紹介するとともに、「元気が出る農業」につながる各種生産資材を展示・即売。

12月13日 ● JAそうま健康寿命100歳プロジェクト「いきいきウオーキング」開催

平成23年

1月14日 ● 香西かおりショー開催

合併15周年記念企画として、南相馬市民文化会館「ゆめはっと」にて華麗な歌謡ショーを開催、来場者2,000人。

2月25日 ● 子育て支援開始

「少子高齢化」を跳ね返せ！
子育て夫婦の皆さんに、行政と連携して、JA事業優遇特典付パスポート券を発行。



プール育苗指導会



アグリスクール



小松菜指導会

■その他

平成22年(2010年)

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 4月1日 | 戸別所得補償モデル事業がスタート |
| 5月24日 | 自動体外式除細動器(AED)の設置(支店・元気高齢者施設・葬祭会館) |
| 5月29日 | 第14回通常総代会 |
| 8月28日 | JAそうま葬祭事業協力委員会設立総会 |

社会の出来事

- ・宮崎県の家畜伝染病口蹄疫問題で非常事態宣言(5月)
- ・サッカーW杯南アフリカ大会開催(6月)
- ・日本の小型惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還(6月)



香西かおりショー

本組合の出来事

平成23年

3月11日

● 東日本大震災発生

震度6・マグニチュード9.0の大地震、高さ10m超の大津波。続いて、東京電力福島第一原子力発電所の爆発・放射能漏れ事故が発生。当地方は未曾有の被害を被る。(詳細、後掲)

3月12日

● 災害対策本部を設置

震災からの復興に向け、JA本店内に設置。

「震災に負けるな!」、様々な復旧・支援対策を実施。(詳細、後掲)

10月12日

● アグリサービスそうま開所式

JA子会社としての農業生産法人を設立。農業経営・農作業受託事業等により、農村現場ニーズに応え、地域農業の「受け皿」づくりをすすめる。

11月1日

● 「ふれあい旬のひろば」塚田店がオープン

農産物直売所4店舗目。地元農産物の「安全・安心」をPR。

11月5日

● 震災復興まつり 中村みなみ支店前広場にて

未曾有の被害の中でも、震災復興を図る「元気」「絆」づくりの場として開催。

■ その他

平成23年(2011年)

6月26日 JAそうま健康寿命100歳プロジェクト「いきいきウオーキング」開催

8月27日 第15回通常総代会

11月26日 平成23年度臨時総代会

11月27日 JAそうま健康寿命100歳プロジェクト「いきいきウオーキング」開催

平成24年(2012年)

2月13日 相馬中村生活購買店舗を生産資材購買店舗へ統合・移転

社会の出来事

- ・サッカー女子W杯ドイツ大会で日本女子代表が初優勝(7月)
- ・アナログ放送が岩手・宮城・福島を除いて地上デジタル放送へ移行(7月)
- ・タイ王国で過去最大の水害が発生、国土の3分の1が水没(10月)
- ・京都の清水寺が選ぶ今年の漢字に「絆」が選ばれる(12月)



東日本大震災発生



アグリサービスそうま開所式



「ふれあい旬のひろば」再オープン



震災復興まつり

本組合の出来事

平成24年

3月2日 ● **「いきいきくらぶ相馬」開所式**
年の功は地域の宝…、いつまでも「いきいき」「はつらつ」！ 鹿島・小高・新地に続き、4箇所目の元気高齢者施設。

5月1日 ● **「100歳食料理サークル」設立**

9月13日 ● **相馬中村総合研修センター内に法要室落成**
身近で気軽にご利用いただける、「JAならでは」の施行・サービスの法要を目指す。

11月10日 ● **飯館総合支店ATM再稼働**

12月8日 ● **小高区役所前ATM再稼働**

平成25年

1月15日 ● **小高総合支店・福浦支店臨時営業店舗移転・稼働**
震災後、鹿島総合支店事務所内に同居・併設していた臨時営業店舗について、「早期地元帰還！」も視野に入れ、南相馬市原町区高平に移転・稼働。



いきいきウォーキング



いきいきくらぶ交通安全教室



着物リフォーム教室

■その他

平成24年(2012年)

5月26日 **第16回通常総代会**

4月28日 **JAそうま健康寿命100歳プロジェクト
「いきいきウォーキング」開催**

11月16日 **第38回JA福島大会**

社会の出来事

- ・高さ634m世界一の自立電波塔「東京スカイツリー」が開業(5月)
- ・ロンドンオリンピック開催(7月)
- ・山中伸弥医学博士のノーベル生理学・医学賞受賞が決定(10月)
- ・第46回衆議院議員総選挙で自由民主党が大勝(12月)



アンパンマンショー

本組合の出来事

平成25年

3月7日

● 福島県北地区JA合併推進協議会設立

厳しい環境に対応し、「より強く、組合員の負託に応える」「震災復興を加速させる」JAをつくる！

新ふくしま・伊達みらい・みちのく安達・そうまの4JAを構成員とし、平成28年3月を新組合発足目標とする。



飯舘総合支店リニューアルオープン

4月1日

● 飯舘総合支店リニューアルオープン

震災による被災施設を修理・復旧。南相馬市原町区北長野の臨時営業店舗から地元帰還・営業再開。



細川たかし＆長山洋子ジョイントコンサート

9月20日

● 年金友の会1万人達成記念「細川たかし＆長山洋子ジョイントコンサート」

11月2日

● 第17回JAまつり(～3日)

南相馬ジャスモール前特設会場で開催。「みんなで踏み出せ大きな一歩、そうまの大地の安全宣言!」、二日間で25,000人来場。



健康増進活動

11月13日

● 相馬地方農業復興大会

農業者・消費者・行政・研究者300人が参集して氣勢をあげる！

農業生産基盤の復旧・復興と風評被害払拭、直販・6次産業化推進を宣言。



相馬地方農業復興大会

■ その他

平成25年(2013年)

5月25日 第17回通常総代会

社会の出来事

- ・東京スカイツリーから本放送開始(5月)
- ・富士山が世界文化遺産に登録(6月)
- ・プロ野球楽天イーグルスが初優勝(11月)

本組合の出来事

平成26年

3月～4月

● 雪害による倒壊パイプハウス撤去
ボランティアを職員が実施



パイプハウス撤去ボランティア作業

10月3日

● 年金友の会 小林幸子ショー

平成27年

1月16日

● 「天のつぶ」特別純米酒を発表

地元農産物の6次化商品、震災復興のシンボルとして、福島県が開発したオリジナル品種による「特別純米酒 天のつぶ」を開発・製造、発売開始。



あぜ道指導会

2月8日

● 「味菜ひろば よりみち」がオープン

JAそうまも全面支援し、JA女性部が運営主体となる農産物直売所が新地総合支店前広場にオープン。



「天のつぶ」純米酒を発表

■ その他

平成26年(2014年)

5月24日 第18回通常総代会

社会の 出来事

- ・ STAP細胞論文に改ざんなど不正(3月)
- ・ 消費税が5%から8%へ(4月)
- ・ ベネッセ顧客情報が大量流出(7月)
- ・ 集团的自衛権を限定容認(7月)



「味菜ひろば よりみち」がオープン

本組合の出来事

平成27年

5月13日 ● トルコギキョウ生産部会設立総会

5月25日 ● アントニオ猪木「元気米」復興プロジェクト実施

「元気があれば田植えも復興もできる」…、アントニオ猪木氏とプロレスラーの皆さんが南相馬市原町区の被災水田で「元気米」を田植え。
(秋の収穫・稲刈り作業も予定)



アントニオ猪木田植えプロジェクト

6月12日 ● フレッシュミズ組織発会式

女性部との連携のもと、若い年代を中心としたコミュニケーション・自己研鑽・サークル組織を発足。



J A そうまキャンペーンレディー

7月5日 ● 「ふれあい旬のひろば」リニューアルオープン

8月8日 ● JAそうま合併20周年記念式典

「人の和、努力、実践の20年」…、節目に当たり、J A そうまを支え育てていただいた組合員・関係者の皆様に感謝の意を表するとともに、今後も地域に「かけがえのない存在」であり続けることを決意・宣言。



100歳食料理サークル

■ その他

平成27年(2015年)

5月30日 第19回通常総代会

社会の出来事

- ・常磐自動車道が全線開通(3月)
- ・首相官邸の屋上に小型無人機「ドローン」が着陸(4月)
- ・日本年金機構の個人情報流出(6月)



第19回通常総代会

東日本大震災復興への取り組み

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の国内観測史上最大となる大地震が発生し、大太平洋沿岸を中心に広い範囲で大津波が発生。さらには、東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故が発生し、これまで経験したことのない事態が発生した。

■おもな復興や事業の取り組み経過

平成23年	
3月11日	午後2時46分 東日本大震災発生
12日	「JAそうま災害対策本部」を設置
15日	JAそうま本店機能を新地総合支店に移転(～29日)
4月8日	警戒区域の設定に伴い、小高総合支店機能を鹿島総合支店内へ移設
28日	復興に向けた管内2市1町1村長へ要望書を提出
6月1日	原発損害賠償・補償対策班を新たに設置
7月4日	原発事故による計画的避難指示のため、飯館総合支店・飯樋出張所を原町営農センターに移転
10月12日	JA出資型法人「アグリサービスそうま」を設立
12月3日	災害農地除塩・除染対策班を新たに設置



平成24年	
3月2日	元気高齢者施設「いきいきくらぶ相馬」を「ふれあい大野プラザ(旧大野支店)」に移転・開所
8月9日	復興に向けた要請書を平野復興大臣・県選出国会議員へ提出
11月10日	震災以降休止していた飯館総合支店ATMが再稼働
14日	復興に向けた要請書を地元選出県議会議員へ提出
12月8日	震災以降休止していた小高区役所前ATMが再稼働



平成25年	
1月8日	福島県に「農業生産基盤復旧に向けた要望書」を提出
15日	鹿島総合支店内で営業をしていた小高総合支店・福浦支店が原町区下高平(旧原町総合支店)に移転
4月1日	臨時店舗(南相馬市原町区)にて営業していた飯館総合支店が帰還し、リニューアルオープン
13日	農林水産大臣政務官に早期復興に向け要請
9月12日	農水省・国会議員・東京電力(株)に対し、原子力損害賠償に関する要求・要請活動
11月11日	「相馬地方農業復興大会」を開催
12月9日	自民党幹事長へ早期復旧に向け要請



JAそうま管内の被害状況

(1) 原発損害賠償金（平成23年度～平成26年度の累計）

農家損害賠償請求額	403.1億円
J A 営業損害賠償金	5.1億円
J A 土地損害賠償金	3.6億円
J A 償却資産賠償金	4.3億円
J A 棚卸資産賠償金	1.1億円

(2) 東日本大震災での建物更生共済金

25,623件	535億円
---------	-------



要請活動のようす



米 穀

被害状況	対応策
津波被害 (4,321ha) 原発被害 (5,439ha)	・ 放射性物質対策 ・ 除染・除塩作業 ・ 全量全袋検査

	作付面積	集荷数量
平成22年度	8,502ha	413,339俵
23年度	1,690ha	75,850俵
24年度	1,884ha	92,534俵
25年度	2,123ha	108,471俵
26年度	2,314ha	134,503俵



園 芸

被害状況	対応策
・ 津波による畑地流失 ・ 原発事故による放射能汚染 ・ 原発事故による風評被害	・ 放射性物質検査の徹底 (検査機器導入) ・ パイプハウス導入 170戸 (274棟) 平成27年6月現在 ・ 新技術導入による養液栽培・少量土壌培地耕 (園芸生産基盤振興等支援事業) ・ 消費拡大運動への取り組み

	畑・樹園地面積	販売高
平成22年度	415.5ha	1,891百万円
23年度	168.8ha	588百万円
24年度	173.0ha	638百万円
25年度	166.6ha	777百万円
26年度	205.8ha	768百万円



畜産

被害状況	対応策
・避難指示による殺処分や臨時セリ ・飼養頭数の激減 ・風評被害	・牛の導入支援(畜産生産振興対策事業) ・消費拡大運動

	畜産農家戸数	飼養頭数	販売高
平成22年度	364戸	4,864頭	1,981百万円
23年度	105戸	2,239頭	1,510百万円
24年度	95戸	2,202頭	936百万円
25年度	90戸	2,235頭	1,067百万円
26年度	79戸	2,153頭	1,130百万円



地域を元気に～

- ・JAまつりの開催
- ・相馬地方農業復興大会
- ・食育・食農教育の実施
- ・健康寿命100歳プロジェクト
(いきいきウオーキング、100歳食料理教室)
- ・お客様感謝デーの開催や支店だよりの発行(毎月)



※震災復興の取組みは、「農林漁業協同組合の復興への取組み記録 東日本大震災アーカイブズ」ホームページ(農林中金総合研究所)で紹介しています。
<http://www.quake-coop-japan.org/>

「ひろば」のあゆみ

広報誌「ひろば」は、1996年5月に創刊され、2015年8月でめでたく通算231号を迎えることができました。ふるさとのたくさんの笑顔、ものづくりにかける情熱や元気を毎月タイムリーにお伝えし、地域と一緒に成長してきた広報誌は、JAそうまと会員の皆さまをつないできた架け橋です。ここでは「ひろば」を飾ってきた表紙をダイジェストで振り返ります。



1996年4月発行の特集号では、新生・JAそうま発足のお知らせと合わせて広報誌の名称を地域の皆さまから募りました。



▶ 1号～70号

1996年5月号。第1号の表紙を飾ったのは「ひろば」の名付け親になりました鹿島区の大谷郁子さん。

管内にお住まいの素敵なお嬢さんたちが表紙を飾りました。11号から表紙がカラーになりました。





▶ 71号～94号

生産者と旬の農産物を写真で紹介。愛情をたっぷりかけて作っている様子が誌面から伝わってきます。



▶ 95号～164号



色鮮やかな旬の農産物の写真を表紙全面を使ってレイアウト。2004年8月には、めでたく創刊100号を迎えました。

▶ 165号～189号



165号から生産部会の皆さんの笑顔を毎号にわたって紹介。チームワークと元気の良さがJAそうまの自慢! 180号(2011年4・5月合併号)は東日本大震災の影響により、ひと月遅れの発行に。裏表紙には「全国からの応援メッセージ」が掲載されました。188号(2012年1月号)は復興への願いを込めて「松川浦大橋と日の出」の写真が表紙を飾りました。

▶ 190号
～202号



190号～202号は、JAそうま健康寿命100歳プロジェクトの一環で取り組んでいる「100歳食」料理を紹介しました。

▶ 203号～225号



203号から表紙を飾ったのは、収穫風景や旬の農産物など、生産者の目線で撮った写真でした。214号(2014年3月号)では、震災後、女性大学などで取り組んだ「つるし雛」を展示。多くの方々の心を癒しました。また、224号(2015年1月号)は、福島県産米「天のつづ」を利用した特別純米酒が完成、表紙を飾りました。

▶ 226号～



東日本大震災後、農業復興に向けての取り組みを紹介し、一歩ずつ前に進んでいることを紹介しています。園芸の復興のために進めてきたハウスの導入による小松菜の栽培面積の拡大や、南相馬市(避難区域20kmを除く)の稲作再開の本格化、アントニオ猪木議員の協力による「元気米」の田植えなどを紹介しています。また、227号からはJAそうま合併20周年を迎え、20周年シンボルマークを掲載しています。



Pickup ― 広報誌「ひろば」を盛り上げた数々の企画 ―

「農業頑張っています!!」



2000年5月号より抜粋。「農業頑張っています!!」のシリーズでは、生産農家の皆さんのこだわりを取材しました。

「名所・旧跡!!」



2000年4月号より抜粋。「名所・旧跡!!」のシリーズでは、伝説や由来などを分かりやすく紹介しました。

「22世紀に残したい 相馬地方の方言」



2003年1月号より抜粋。「22世紀に残したい 相馬地方の方言」では、日常の相馬弁を楽しく伝えました。

「ふれあい食材を使った 私の料理」



2001年12月号より抜粋。「ふれあい食材を使った 私の料理」のコーナーでは、地元のお母さんのレシピを掲載。おいしそう!

「げんききっず!」



2002年7月号より抜粋。「げんききっず!」のコーナーでは、組合員のお子様をパチリ。パパ・ママからのコメントも愛情たっぷり。

「100歳食料理サークル おすすめレシピ」



2013年4月号より抜粋。「100歳食料理サークル おすすめレシピ」のコーナーでは、地元の食材を使った体にやさしい料理を紹介しました。

「次代へつなぐ」



2013年9月号より抜粋。「次代へつなぐ」コーナーでは、生産農家の皆さんのこだわりと農業の魅力について伝えました。

特産品プレゼント



2014年7月号より抜粋。クロスワードの正解者に、支援JAの特産品をプレゼント。おいしい絆が生まれました。

店舗一覧

店 舗 名	住 所	電 話
本 店	南相馬市鹿島区横手字川原 185 番地 1	(0244) 67-2551
鹿 島 総 合 支 店	南相馬市鹿島区横手字川原 185 番地 1	(0244) 46-1301
上 真 野 支 店	南相馬市鹿島区浮田字野中 193 番地	(0244) 47-2222
新 地 総 合 支 店	新地町谷地小屋字樋掛田 6 番地 1	(0244) 62-2121
相馬中村総合支店	相馬市中村一丁目 15 番地の 5	(0244) 36-2101
中村みなみ支店	相馬市日下石字諏訪 30 番地の 2	(0244) 35-2904
玉 野 出 張 所	相馬市玉野字副霊山 309 番地	(0244) 34-2125
原 町 総 合 支 店	南相馬市原町区錦町一丁目 11 番地	(0244) 22-3401
原 町 西 支 店	南相馬市原町区大木戸字八方内 123 番地	(0244) 22-3332
小 高 総 合 支 店	南相馬市小高区西町一丁目 88 番地の 1	(0244) 44-3004
福 浦 支 店	南相馬市小高区女場字山田 190 番地の 1	(0244) 44-3101
飯 舘 総 合 支 店	飯舘村深谷字二本木前 27 番地の 1	(0244) 42-0121
飯 樋 出 張 所	飯舘村飯樋字町 56 番地	(0244) 43-2014



※避難区域等営業店舗

小高総合支店、福浦支店、飯樋出張所をご利用頂いている組合員の皆様には、大変ご不便をお掛け致しております。現行、上記支店につきましては、帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域となっておりますので、下記臨時店舗を設置し営業しております。

店 舗 名	臨時営業店舗住所	連絡先
小高総合支店福浦支店 (臨 時 営 業 店 舗)	南相馬市原町区下高平字雁明 46 番地の 1	TEL (0244) 25-3601 FAX (0244) 24-5270
飯 樋 出 張 所	飯舘村深谷字二本木前 27 番地の 1	TEL (0244) 42-0121 FAX (0244) 68-2001
飯舘村総合相談 JA 窓口	福島市飯野町字後川 3 番地 1 (飯野交流館内)	TEL (024) 562-2120 FAX (024) 562-2130



JA そうま合併 20 周年シンボルロゴマーク

編 集 後 記

未来を描いた映画や漫画に誰もが夢を膨らませました。なんとあの『鉄腕アトム』『バック・トゥ・ザ・フューチャー』などは 2015 年“今”を舞台にしたストーリーというから大変興味深く感じます。“今”と比較しながら…

そこに描かれた携帯電話はすでに普及し、スマートフォンへと進化、そこにさまざまな情報ネット社会が広がっています。また、アトムのような人間型ロボットも誕生しています。

平成 8 年に 7 JA が合併し、おかげ様で 20 年の月日を重ねてきました。環境変化の波に、さらにまた再編の時を迎えました。そのような折に「JA そうま合併 20 周年記念誌～人の和・努力・実践の 20 年」として編集にあたり、皆様にお届けできることは大変光栄に思います。

新しい JA の姿をめざす時に、あらためて『温故知新』の心で、これまでの皆様方とのあゆみに感謝の意を込めながら編集に努めました。

どうか、皆様の傍らに置かせていただき、時折ご家族の話題のきっかけになるような記念誌となれば幸いです。

発 行／平成 27 年 8 月

発行者／そうま農業協同組合

編 集／総合企画部企画課

佐藤吉徳 稲本修一 持立良文 森 幸子

〒 979-2442

福島県南相馬市鹿島区横手字川原 185-1

TEL 0244-67-2551 (代表) FAX 0244-67-2545

ホームページ <http://www.ja-soma.or.jp>

E-mail somu@ja-soma.or.jp

印 刷／株式会社 日進堂印刷所



JAそうま